

国立国会図書館 タイトル『花壇地錦抄 6巻』 請求記号 特1-2921

ガラス使用

○夏木の分の まぶてまき夏木をまぶけり秋より冬
の中へ秋葉をまぶたらしむ夏木と
いふより秋葉もまぶる

○楓のろし本 えんこ

一 夏木の分の秋葉をまぶてしむもなま古は春れは雪
さぬくの夏木にて秋を秋葉と混りて先ありて秋
木小な切込をわきまをなま古は秋の葉とわかれ
るがふしなま古はあまわきし集改しては秋葉を
三十一の程にわきまのわきしとて名れりよ古きま
て秋の楓と名づくるは

○昇仙楓 三十一程 長門昇入

三十一

三十一



小倉山



新仙那

美濃郡切の多く十二の山

ありて十二の山と号

としのむね好まぬ

ありてそれけり

らむたぐお葉の

あふらうりて

まがらうりて

のむねとよぶ

今も

びの

海

真信公の

定家郷

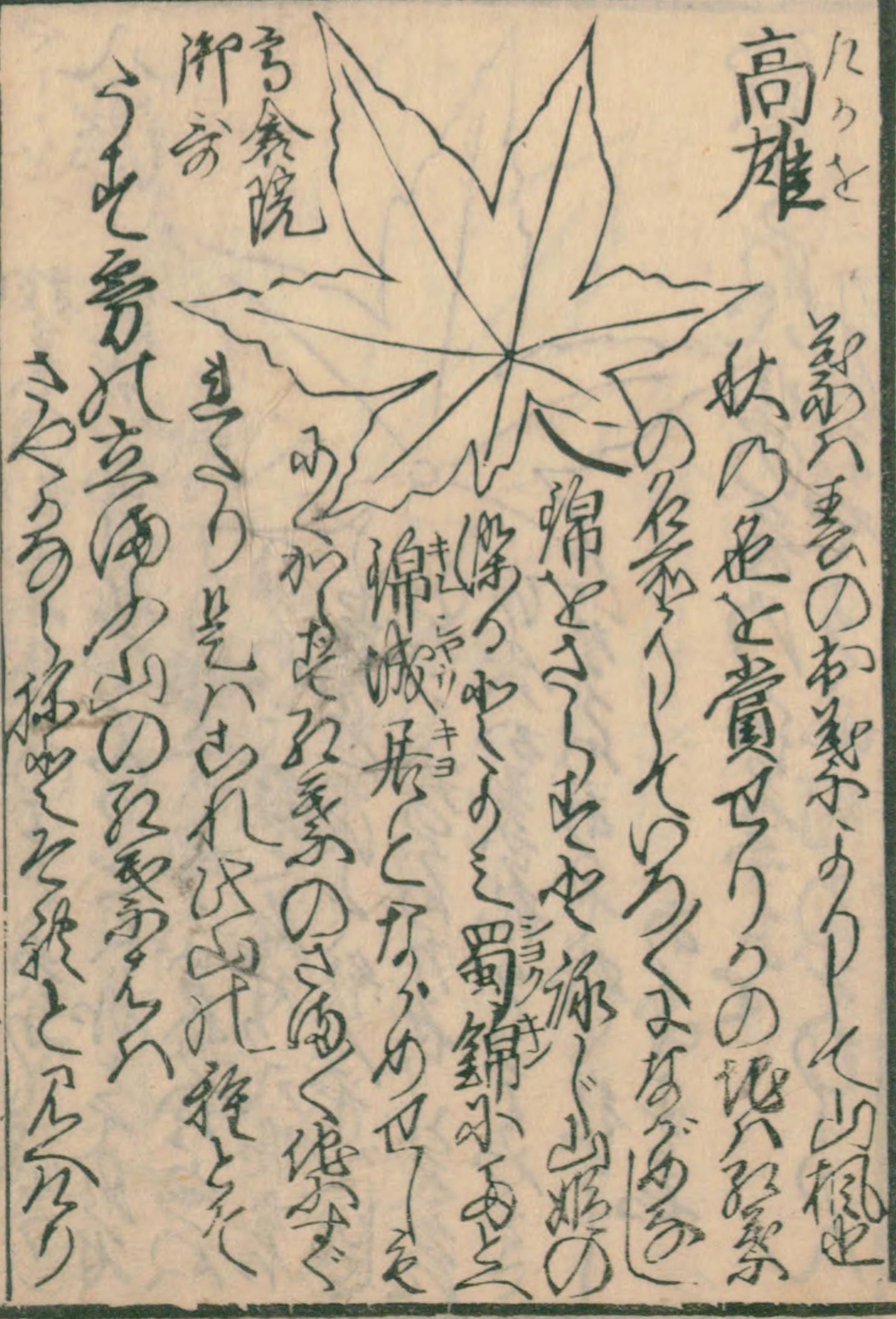
小倉山

美濃郡

切

の

高雄



美濃郡の

秋の色と賞せり

の

綿と

深

綿

あ

ま

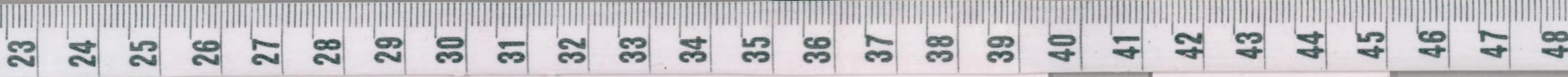
う

ま

高倉院

大田

三三



八深

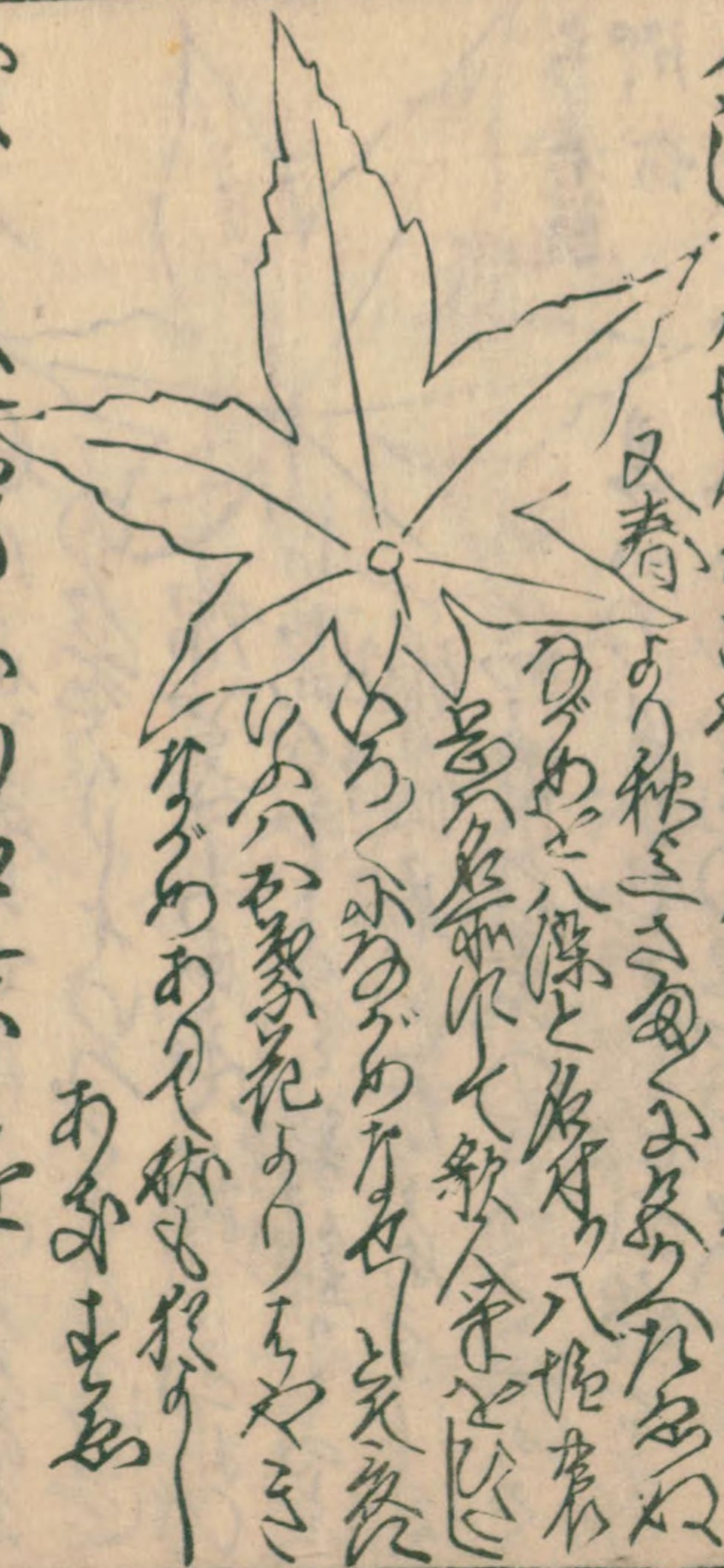
初葉のむぎ葉のどく花あも通なり
八深のむぎ葉とらんぞくかえを花月

又春

の秋と八深と花月八深葉
はるのむぎ葉とらんぞくかえを花月
はるのむぎ葉とらんぞくかえを花月
はるのむぎ葉とらんぞくかえを花月

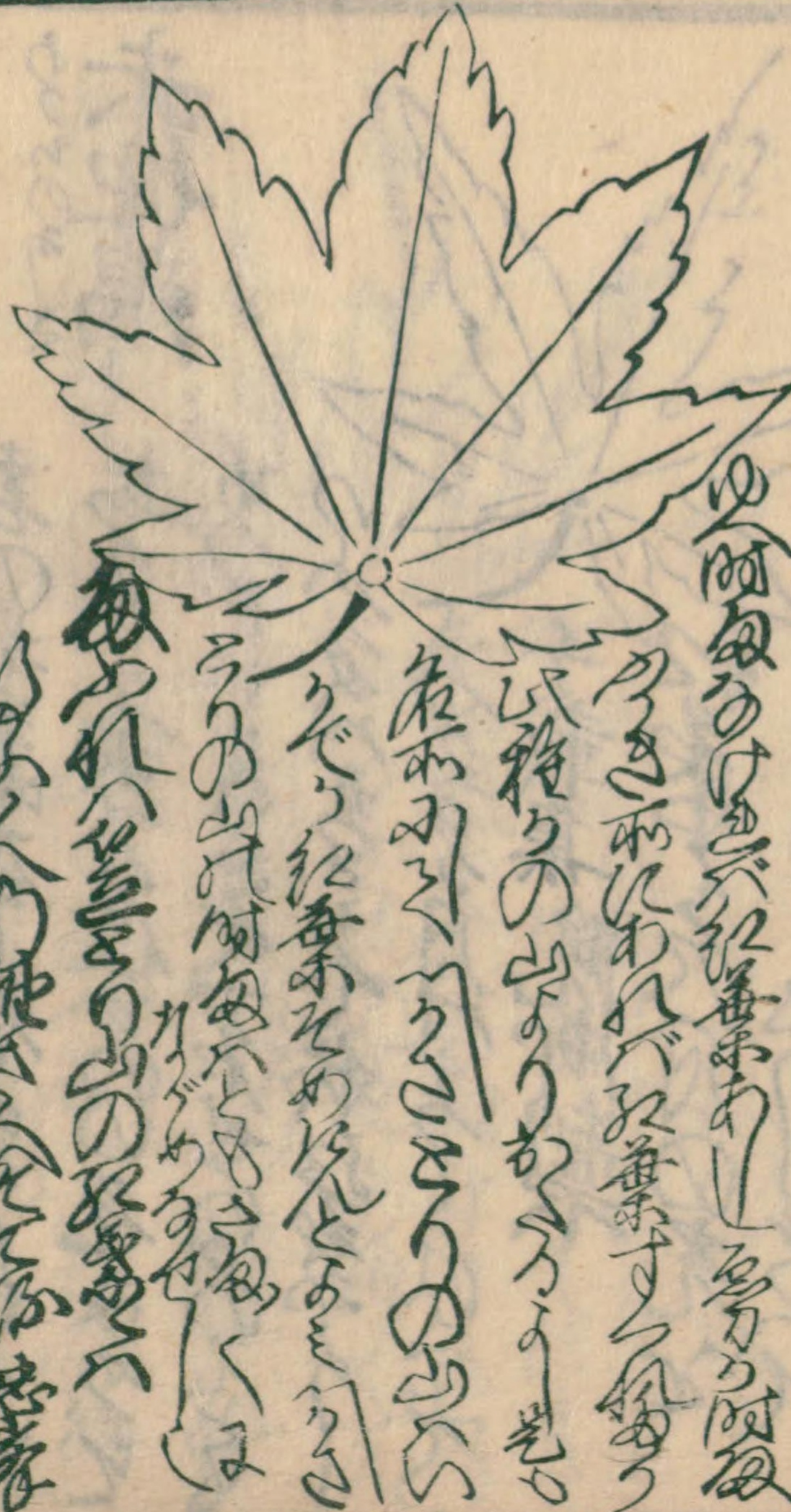
あふまを

後々ぬ八深のむぎの紅葉とらん
かえわやまのむぎの紅葉とらん



紅葉山

かえわのむぎの紅葉とらん
かえわのむぎの紅葉とらん



かえわのむぎの紅葉とらん
かえわのむぎの紅葉とらん

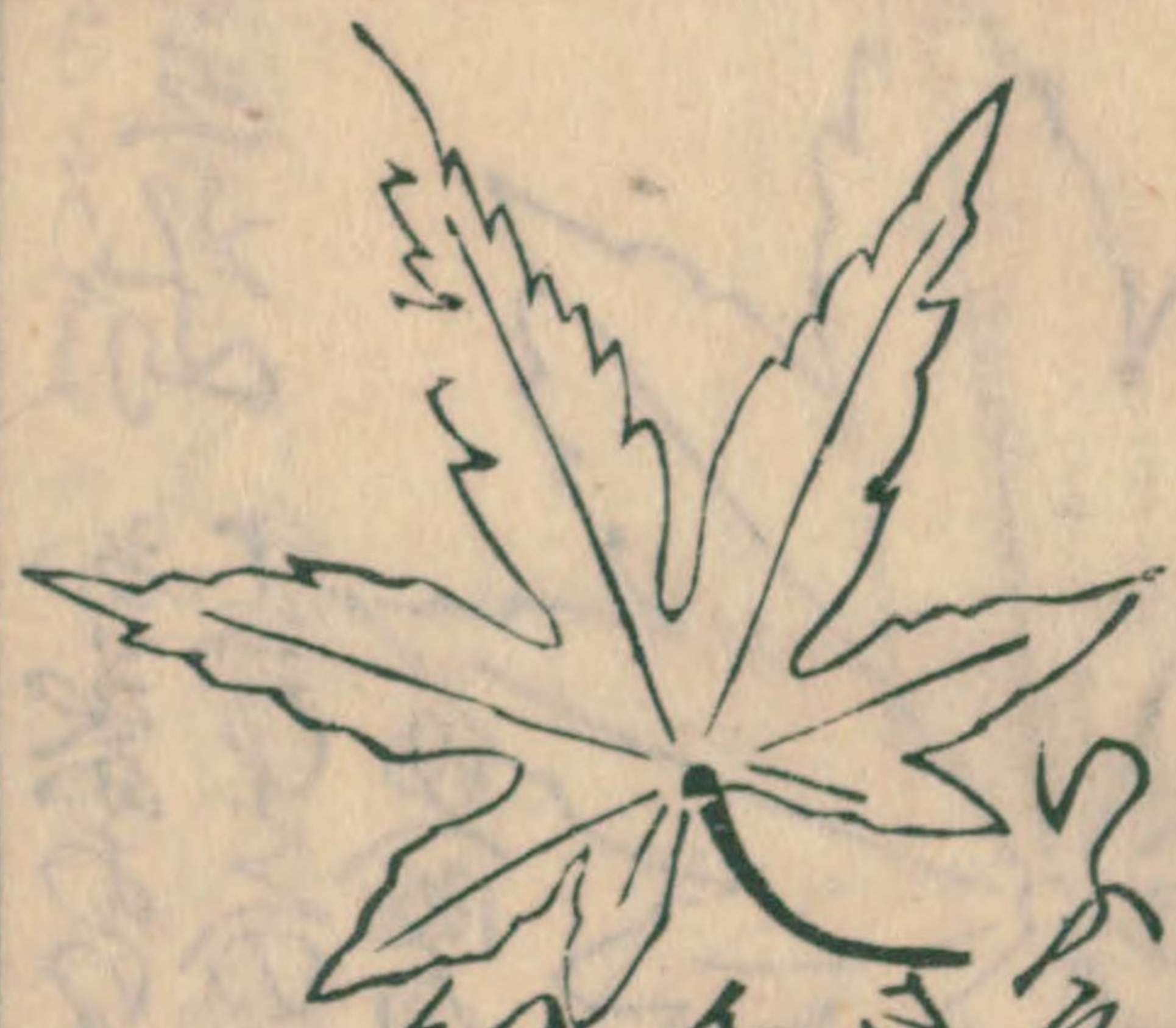
紅葉山

三三三



赤地錦

あつちのあじ



表のお葉を平下りのついで
 ありも久変らぬあの色さあぞ
 めしきさそそ石せのつと
 いふ夜ハあそそ秋お葉あう
 千載集院御製
 紅葉中々月ノ光と
 是や葉の錦なるん

たむげ山

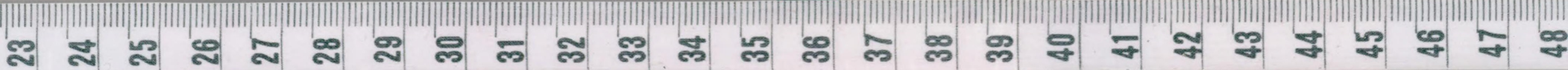


たむげ山

あつちのあじ
 秋の澤あそそあふり
 かんがごとくそそはき
 根た又ハ紅すりし
 いの秋の色ハ海く又
 すられあり
 菅家

新編

三

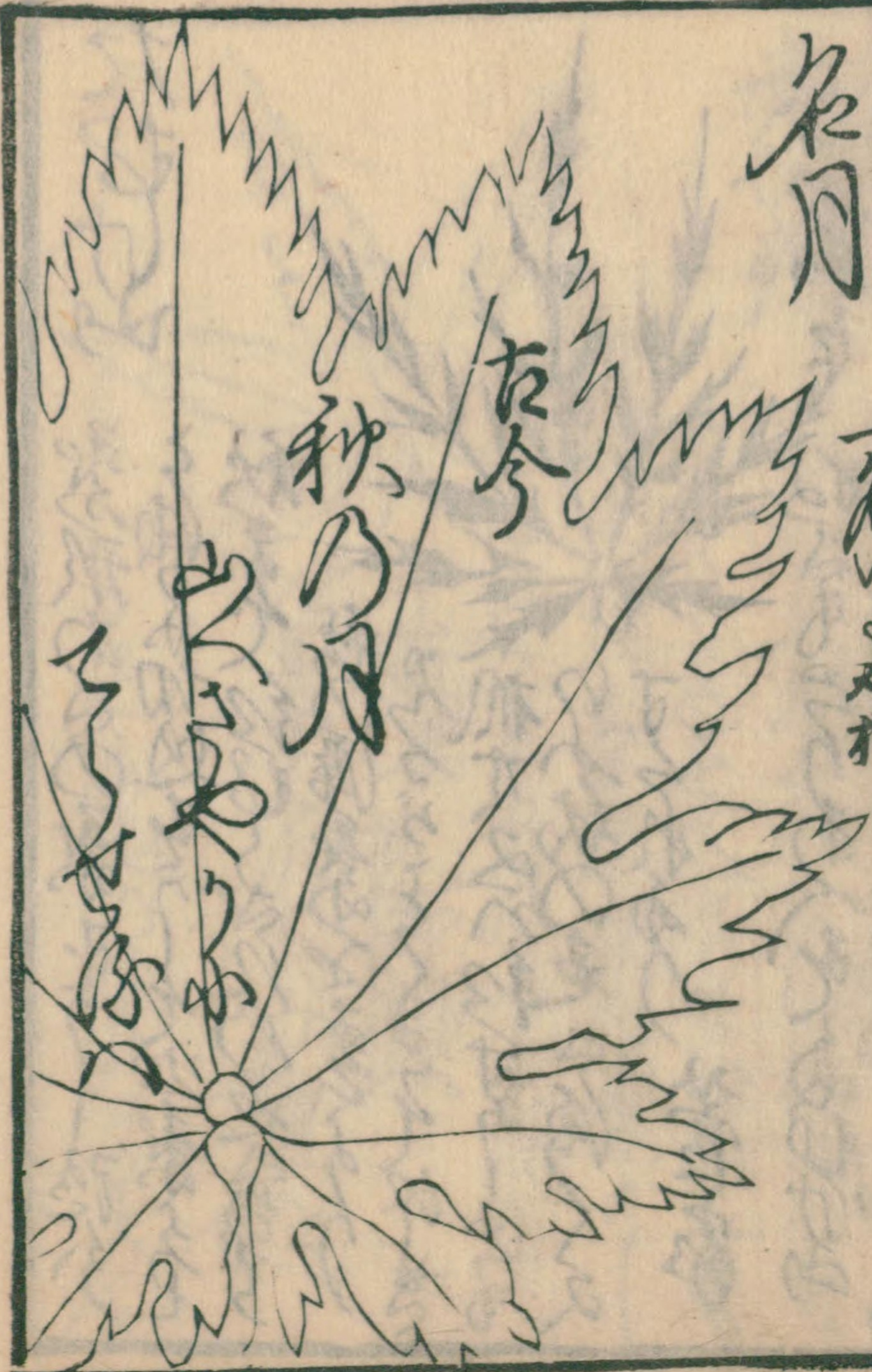


あつきの
名月

一名のわね

古今

秋の月



藤子紅葉の

おとこ

葉形切敷多

十二部とのエビ

はかたなる事

ゆああー葉多ク有^け多ク木の^け下なる^け多クも

ぬとつふ心めや^{ナク}板^{ナク}板と号^{ナク}こころき^{ナク}て

秋^{カウ}ハ^ウ葉^ウも^ウ也^ウ也^ウな^ウま^ウよ^ウう^ウえ^ウん^ウ丹^ウ際^ウの^ウ葉^ウ形^ウち^ウま^ウけ

生^{カウ}度^ウ紅葉^ウの^ウ節^ウ月^ウ乃^ウの^ウり^ウの^ウり^ウか^ウへ^ウん^ウ物^ウ於^ウす^ウれ

る^{カウ}人^ウと^ウも

秋山

三



切錦

邪のひ

見むら

の山と

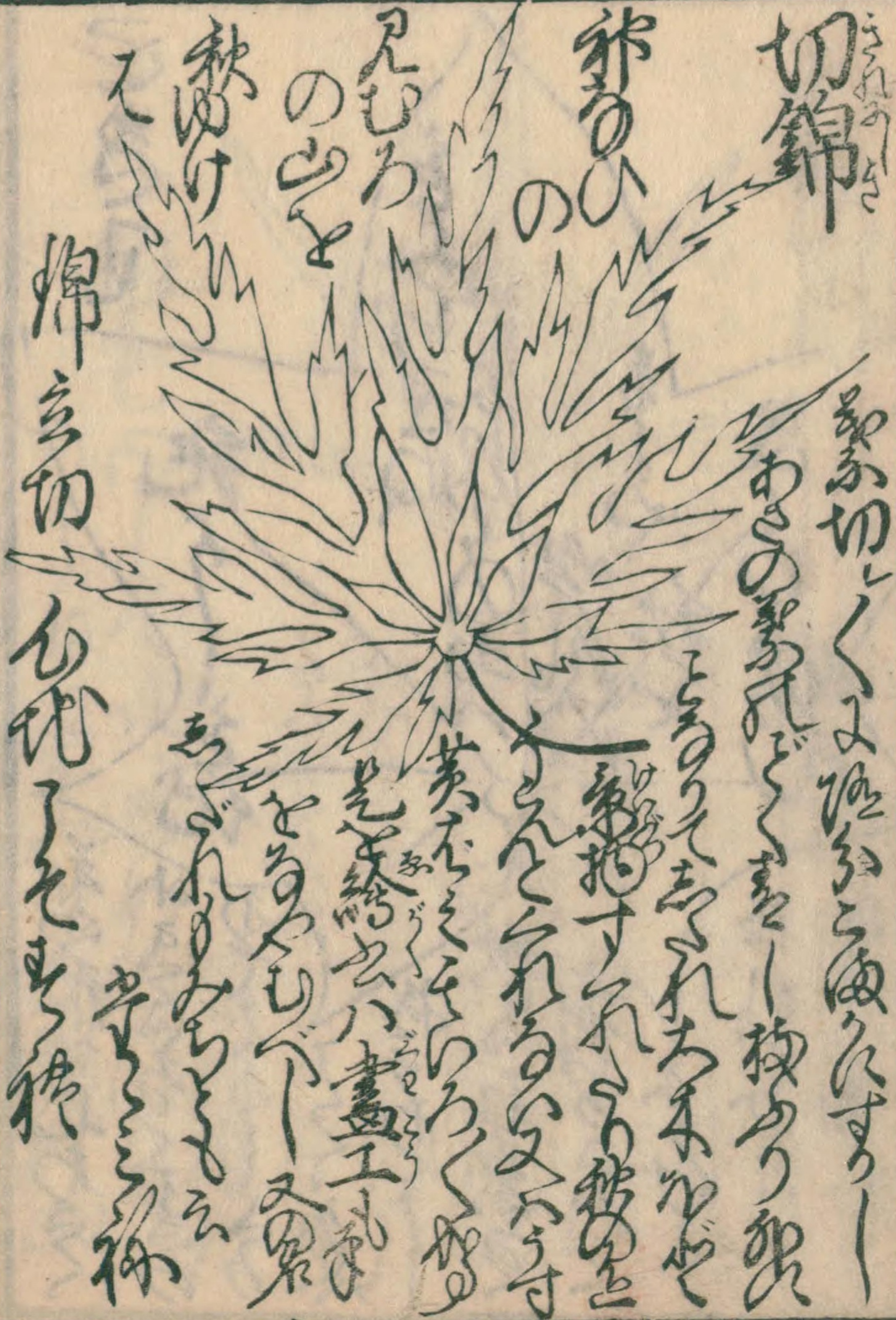
秋ゆけ

こ

綿立切

心代了そまう様

きりぎりす



葉切しくよはかたは海へすりし

あまの葉れどくまきし枝あり衆

こまのえあられち本をばせ

一葉持すれり枝のよ

かえとせれるいふふ守

葉をえそらるくむ

先と給ぬハ畫工も

とるむむべし又衆

あざれのみらもも

あともか
まき葉



葉飛つ日の根乃どくは葉おケ

あまき羽合天孫名寺の八木

の四よまき葉の根ありはさくら青

後系為相郷あうりあめとそ

を免ままでまき葉あえゆり

ゆりば持るりうあしう今

いあまきりの穰まそわの根と

まき葉を也持てまきれはあふぶたも

お葉まじあどかえし

為相郷

如何あえびつ甲のまくれん

まき葉の根のまき葉

一葉の根

三七



かきり



葉の海らりられるのよそ沖
まきし古来あやうぐ相と
なるとよぶ葉ののれあのをとま
葉あたまらうりさあうら秋の
わらわられ玉穂とらんうらとく
あえやうそちらんをあしむ
心せりといえよもいあうべ

古今

ち〜福とらうりそかきり葉とら
今成らうりれ葉とらうりれ

紅の波



紅葉の
あはれ
中あつた
よなむら
物つれ
あや
まきり

本は葉をふらあきふはく
あ葉とらうりすとすう〜あど
色あつたららるの楓とらうり
紅葉のうら〜又切綿
あたららるう〜あはれ
なら葉とらあ〜あはれ
あつたららるのの立波
あつたららるの立波
波のあつたららる

秋の月



錦紋



葉形山栂のごとくありて
切込ありて毛を一切取り
物くわりのひらき葉の形
葉の裏より毛をひいて葉
はかたき事よ金紋と
いふものなりがごとくあり
よきなり

葉のへら葉乃ねらうとありてあり
山乃綿れあきばありたり

山乃綿



葉形切込ありて毛をひき
少是ありて毛をちとととと
ありて毛をひきあり
ありて毛をひきあり
ありて毛をひきあり
ありて毛をひきあり
ありて毛をひきあり
ありて毛をひきあり
ありて毛をひきあり

嵐山



葉形切也あつくりて

お葉よりうらりてりせ

是れ秋のりりく

お葉せり

能因法師

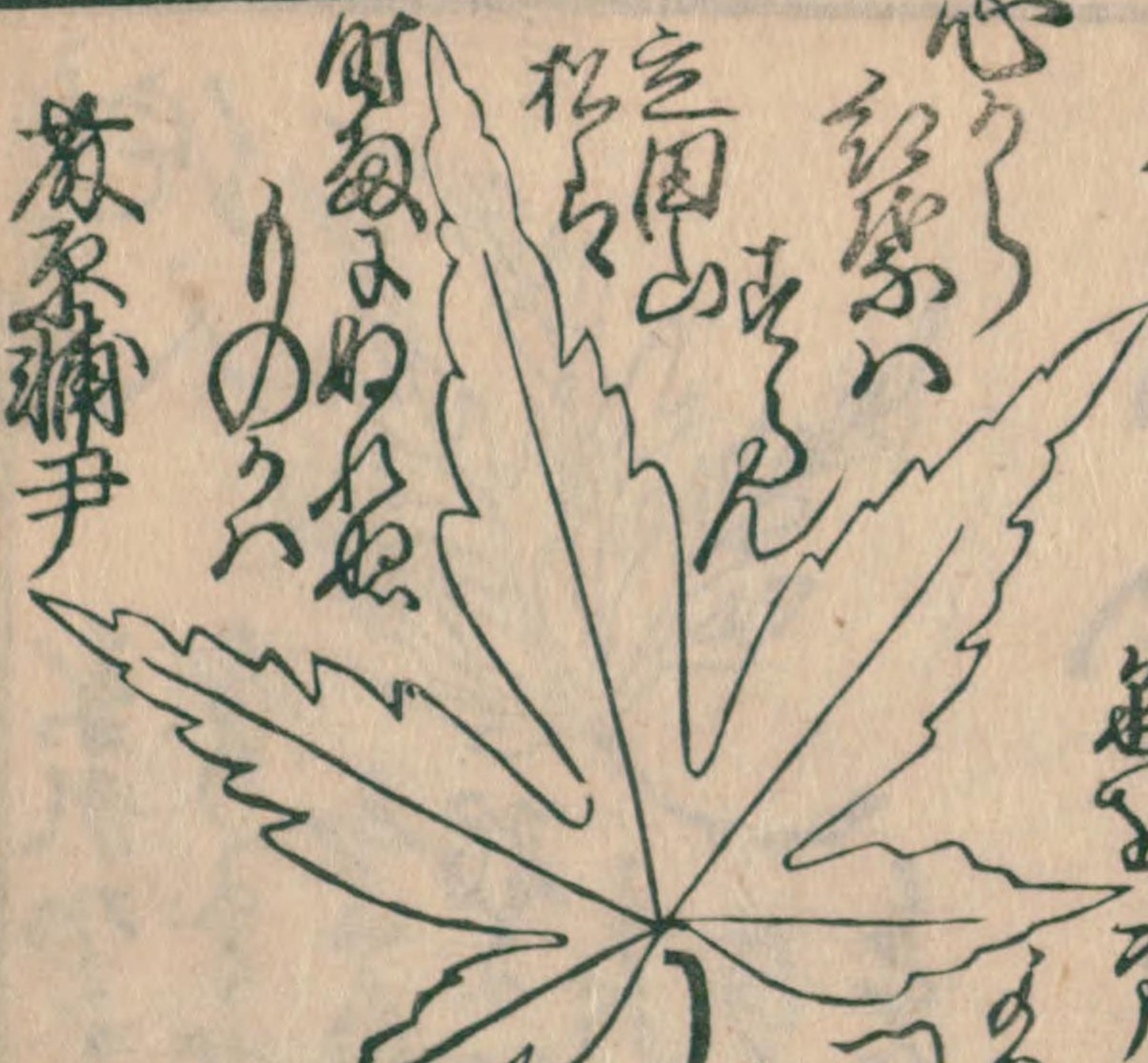
わし吹見むわし

紅葉せり

立田の川せ

綿るりりり

立田



葉形つこの山根とあつりて

色と青いとせり立田の川

の秋のりりあり

立田川へりりりりり

あり平らりりりりり

せり立田川へりりり

うそりりりりりりり

たごりりりりりりり

うりりりりりりりり

とせりりりりりりり

紅葉補尹

船池村

通天



美入山根のり

東福寺通天橋の

名ありりり西玉れ橋

より下下下下がむり

びた孫なるやの秋の

紅葉余よすらねえ走

古今

きらりと海つらん

紅葉とる海やぬらも水へ海に

飛石川



人麿

美入山根のとく西へ葉の中

く白く物あつ葉もふらむら

おもわつ葉の白葉もむらむら

名付てふかりんとも云と年の

白葉葉も来年の葉も

出又とる葉白海下りて年々

かさりやさくさむらあは

ゆわわら所とあや

秋山風

三十八



村雲

○舟仙根終



葉形切迫物く一本はと

あざねはたつちあざねもつふ

結ちうらんとぢぢようえ

色又たすすれあひ

海づつて傷る

覚地は所

村雲のあられて

深のおぼあそへるすく

もいりもるるなり

○本舟仙根二十六年八月に推ぬれり此葉は
板甲うれ中(お)ま(ま)の二平と結さほ換考松
根と名付けて他日花壇ち(お)ま(ま)と名にして
あまんとせり

○汁たうり(お)ま(ま)の根の丸

たうり
さる確(お)ま(ま)の丸

野村 大(お)ま(ま)の丸

あざねく(お)ま(ま)の丸のどく

揚(お)ま(ま)の丸のどく

八(お)ま(ま)の丸

秋(お)ま(ま)の丸

世(お)ま(ま)の丸

あ(お)ま(ま)の丸

た(お)ま(ま)の丸

か(お)ま(ま)の丸



国立国会図書館 タイトル『花壇地錦抄 6巻』 請求記号 特1-2921

ガラス使用



中田者 四寸半ありておまきつらハ
ろくろくハ

白飯 白飯の二種あり本
いふまきとて七寸

ひのちぢ 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

萍荔枝 木ニまきつらハ
おまきつらハ

江戸梅りき 通 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

おちぢ 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

太豆者 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

土用者 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

五味子 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

水入テつらハ 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

木天葵 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

葡萄 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

絡石 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

蓮翹 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

忍冬 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

ひんせん 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

通者 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

凌青 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

お玉 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

花梅 白飯の二種あり本
四寸半ありておまきつらハ

三十三





花の又葉故三合流花とて
 ぐくもをともまきあり
 壁生るる 木まき 花のついで
 ふうくふより月のあつたて秋
 美すつこの如葉

○ 荆棘乃るい通

花のいびき 花のいびき
 大いん

長春 ハルビン 八つとあきやうにらん
 四季 ハルビン

通を秋中初
 百部桂 ハルビン 花のいびき
 ころろくたえ

らうき 花のいびき
 花のいびき ハルビン

白毛 ハルビン 花のいびき
 花のいびき ハルビン



得長春 えいしゅん いひくわのま

牡丹荊 ぼたんけい はなはるたつん

ぶら荊 ぶらけい はるちゅうん

箱根荊 はこねけい はらちゅうん

荊花 けいけ はなはるたつん

春初 はるはつ
 ○ 幸夷のちひ木 しあさいのちひぎ
 花白 はなしろ はるちゅうん

多初 たはつ
 荊 けい はなはるたつん

ぶら荊 ぶらけい はらちゅうん

山掛荊 やまかけけい はらちゅうん

唐荊 たうけい はらちゅうん

春 はる
 幸夷 しあさい はらちゅうん

葉のしるし... 一名と本
葉の初ニ葉を討つらま
のどし

白蓮花 白のくまんかえり花
あしまんげのどし

玉團花 玉團花とて花
あしまんげのどし

あしまんげ あしまんげは花
あしまんげのどし

一もわりのひめがうし

本蓮花 本まんげ白まんげ
あしまんげのどし

大蓮花 玉團花に花
あしまんげのどし

あしまんげ あしまんげは花
あしまんげのどし

あしまんげ あしまんげは花
あしまんげのどし

あしまんげのどし

○本蓮のしるし

長本蓮 花白くそとたよの
あしまんげのどし

あしまんげ あしまんげは花
あしまんげのどし

あしまんげ あしまんげは花
あしまんげのどし

あしまんげ あしまんげは花
あしまんげのどし

白端細 あしまんげ白らん
あしまんげのどし

あしまんげ あしまんげは花
あしまんげのどし

あしまんげ あしまんげは花
あしまんげのどし



ひくくのうまハゆゑニわりのゆま
花ハ終ニ候て夕ニあぢむ

○柳多し木

独揺柳 ひとりやなぎ 木のそとをこれ木の

ゆまぢのぎ ゆまぢのぎ 木のそとをこれ木の
を中よりゆまぢのぎ

○梨子多し木春中

花ハ白一梨子丸ク

大なるいづきんらり木

いづきの柳 いづきの柳 やなぎ

青梨子丸ク





水蜜みづみつ 糸くわく丸いとくわくまる

まろと せんぞのどくせんぞのどく

まろめろ ねんたがねねんたがね

ほろりほろり 赤くちいさき実わり
 滑梨子なめなし 皮あしかわあし

○柿かきのちひ木

どんごどんご ちきり年丸ちきりねんまる

ちきりちきり 年丸ねんまる

せんぞせんぞ ちきりちきり 大キクおほきく

せんぞせんぞ ねんたねんた のどくのどく

せんぞせんぞ ちきりちきり ねんたねんた

根ね 実み ちきりちきり のどくのどく
 ねんたねんた ねんたねんた ねんたねんた

こ山こさん ちきりちきり 中ちゆう 丸まる

ちきりちきり ちきりちきり 通とほり のどくのどく

甲加丸 中々いぬ

加羅 中々いぬしきりて中々
くろまの粉のり

大平 大々ク平

わまのきりやどわり較多付お

ならやちまのきり大々いぬ
すの粉あり

甲加丸 大々ク丸しきりて中々

大棟 わまのきり大々いぬ
あまのきり

八右丸 わまのきり大々いぬ

さぞろ隠し大々いぬしきりて中々
用ルあり

板六 さつろく大々いぬしきりて中々
あまのきり

○ 栞多し 本四季に葉あり

だいく 栞多し 本四季に葉あり
実のこころみ年々なる

密栞 大小二種を 紀伊守上

栞列 栞多し 本四季に葉あり

栞抽 わまのきり大々いぬしきりて中々
の香たわりさつろく大々いぬ

金栞 葉ハまろくんにほり

祝栞 栞多し 本四季に葉あり

くむか 栞多し 本四季に葉あり

かじ 栞多し 本四季に葉あり

かじ 栞多し 本四季に葉あり

栞子 子のゆありまろくんにほり

栞 栞多し 本四季に葉あり

栞 栞多し 本四季に葉あり



○栗のろい木夏初

ろい木ありし四つれなつ花と

丹波大栗 科理りり

二夏初木 一年ニラな花咲て

秋母栗 七月十八日初方

冬栗 栗のろい木冬

あはらりり中らりり

箱栗 栗のろい木

流栗 栗のろい木

○山株ろい木

約倉 栗のろい木

拙栗 栗のろい木



そのうのくをばらり木に花を
あきたまののあハもあー

通草 わらわいのひんこさ白
と後葉

びやう通木者中
美陽 花をばらり中二令の
わらわいのひんこさ白

下野 連木者中
花白とくうの家の子を
心形なりそまらり

小てまり あつりのあつりて木
モクのびう地花状く
アとくあいのてくあひもく
うのさひしてはくもあり

わらわいのひんこさ白

其茶 花形わらわいのひんこさ
わらわいのひんこさ白

すうまじりて細糸して有ル
世るにてつらよかル茶とあま
らとらあやまりこ子たす
うのあまらやわい木ヲ金
派りたのふたあまあま
あまあま秋の比げらるるの
やうにらんやうをハあうれて
あうー但しまあまは花四季
た二のうにる候とあわづ

茶藤 花若あまやうといふ
わらわいのひんこさ白

やまぎ通春中末

やうにらんやうをハあうれて

あまあま秋の比げらるるの

た二のうにる候とあわづ

わらわいのひんこさ白

あまあま秋の比げらるるの

た二のうにる候とあわづ

わらわいのひんこさ白

あまあま秋の比げらるるの

た二のうにる候とあわづ

わらわいのひんこさ白

あまあま秋の比げらるるの

梶 あまあま秋の比げらるるの
世俗七月七夕にばあまあま
秋ヲよテ二月ニ秋とあま

あまあま あまあま秋の比げらるるの
秋南天のごとくあ
あまあまごりて付ク

あまあま あまあま秋の比げらるるの
あまあまごりて付ク

あまあま あまあま秋の比げらるるの
あまあまごりて付ク

あまあま あまあま秋の比げらるるの
あまあまごりて付ク

あまあま あまあま秋の比げらるるの
あまあまごりて付ク

あまあま あまあま秋の比げらるるの
あまあまごりて付ク

あまあま秋の比げらるるの

あまあまごりて付ク

あまあま秋の比げらるるの

あまあまごりて付ク

あまあま秋の比げらるるの

あまあまごりて付ク

あまあま秋の比げらるるの

あまあまごりて付ク

あまあま秋の比げらるるの

あまあまごりて付ク

あまあま秋の比げらるるの

あまあまごりて付ク

あまあま秋の比げらるるの

あまあまごりて付ク

あまあま秋の比げらるるの

かたはけ 竹のたけのつらなり
月もひまればおけやのつらなり
はま竹 びしきつらなり

箱根竹 今もく松細き竹
金竹 竹の名若こころを分
一羽づゝる葉竹のつらなり

吹く竹 竹の子かあかん
物も平く竹の子かあかん
竹の子かあかん

竹の子かあかん
竹の子かあかん
竹の子かあかん

○ 笹の類

焼系 竹の子かあかん
小まき 竹の子かあかん

若竹 竹の子かあかん
竹の子かあかん
竹の子かあかん

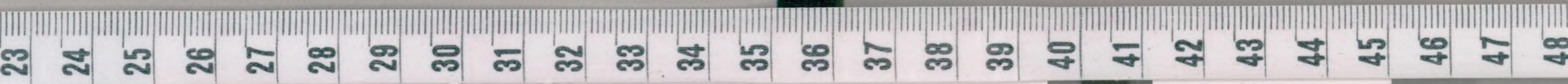
浅竹 竹の子かあかん
竹の子かあかん
竹の子かあかん

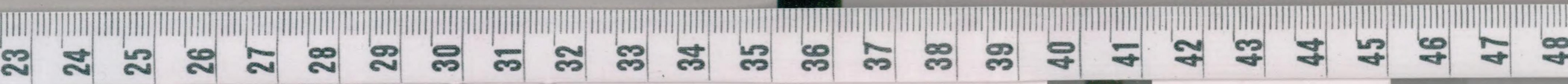
鳳凰竹 竹の子かあかん
竹の子かあかん
竹の子かあかん

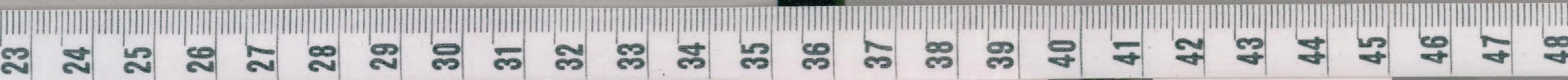
竹の子かあかん
竹の子かあかん
竹の子かあかん

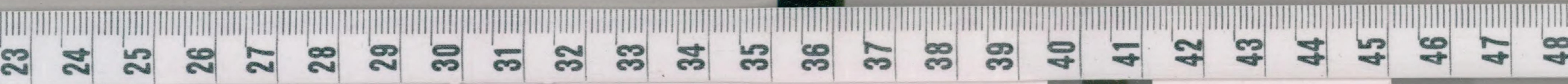
○ 笹の類

見笹 竹の子かあかん
竹の子かあかん













ひじろ ひじろのどくを名別

いの いこの木の葉をうけし山
松 いこの葉をとりて煮て
いのみ いのみ

唐ひば 唐の木の葉をうけし
唐 唐の木の葉をうけし
唐 唐の木の葉をうけし

びやだん びやだんの葉をうけし
本 本の葉をうけし

あ あ

あ あ

あ あ

あ あ

1574



そくそく びんごのいし

多うのぼん びんごのいし びんごのいし
このぼん びんごのいし びんごのいし
かたのぼん びんごのいし びんごのいし
をのぼん びんごのいし びんごのいし
てをのぼん びんごのいし びんごのいし

いぬ ぼん びんごのいし びんごのいし

ぼん びんごのいし びんごのいし

ぼん びんごのいし びんごのいし

びんごのいし びんごのいし

羅漢樹 びんごのいし びんごのいし
のぼん びんごのいし びんごのいし
先佛の形 びんごのいし びんごのいし

虎尾 びんごのいし びんごのいし

ひんごのいし びんごのいし

うら びんごのいし びんごのいし

加無 びんごのいし びんごのいし

びんごのいし びんごのいし

びんごのいし びんごのいし

びんごのいし びんごのいし

びんごのいし びんごのいし

びんごのいし びんごのいし

相 びんごのいし びんごのいし

びんごのいし びんごのいし

松精 びんごのいし びんごのいし

大坂 びんごのいし びんごのいし

多の びんごのいし びんごのいし

びんごのいし びんごのいし

林 びんごのいし びんごのいし

そん びんごのいし びんごのいし

三ノ



楹いばの木の葉のまじり

ひまきまきの葉のまじり

楹いばの葉のまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

楹いばの葉のまじり

楹いばの葉のまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

楹いばの葉のまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり

葉はのまじり



唐槐子 子連方中末 花白く中へんを

玉つゞき 葉のりらのごとく 葉

換木 ちひさき葉のりら 葉

桐 葉のりら 葉

唐楊桐 葉のりら 葉

唐楊桐 葉のりら 葉

まぶさ 葉のりらの木のこ

白 葉のりら 葉

祝 葉のりら 葉

檜 葉のりら 葉

檜 葉のりら 葉

びつ 葉のりら 葉

沈下花 葉のりら 葉

のこ 葉のりら 葉

松南花 葉のりら 葉

まのり 葉のりら 葉

こせ 葉のりら 葉

とだ 葉のりら 葉

馬酔木 葉のりら 葉

葉 葉のりら 葉

食 葉のりら 葉

酔 葉のりら 葉

酔 葉のりら 葉

特 1
2921

○ 実秋を付く人の必也

唐たり通 葉のたゞの
木の長や守る実秋を
二年三年乃実秋を
修く又あるゆへに
たらし

屋ぶら通 葉の茶の
る涼山樞の如く

花丁子通 葉の茶の
実秋を付く人の必也

三ノ四十四

仙葉通 葉の茶の
二三年乃実秋を
修く又あるゆへに
たらし

涼山樞通 葉の茶の
る涼山樞の如く

梅樞通 葉の茶の
実秋を付く人の必也

花丁子通 葉の茶の
実秋を付く人の必也

錦木通 葉の茶の
実秋を付く人の必也

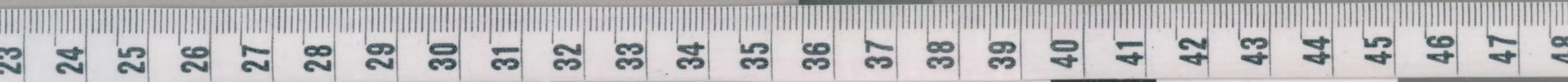
南天通 葉の茶の
実秋を付く人の必也



国立国会図書館

タイトル『花壇地錦抄 6巻』 請求記号 特1-2921

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『花壇地錦抄 6巻』 請求記号 特1-2921

ガラス使用